

自然と地域の未来をつなぐ

石狩川流域 生態系ネットワーク

ネイチャーポジティブのために

1 | 自然と自然、人と人がつながりくらしの基盤をつくる

生態系ネットワークとは

2 | 生きものの居場所をつなぐ生態系ネットワーク

石狩川流域の生きものと自然

4 | 大雪山系からそそぐ日本三大河川のひとつ、石狩川

北海道開発局による取り組み

6 | 川から広がる自然のつながり

生態系ネットワークの参考となる先進的な取組

8 | 市民、NPO

札幌ワイルドサーモンプロジェクト
舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会
長沼タンチョウ・ガイドの会

9 | 企業

日本航空株式会社、イオン北海道株式会社
株式会社北洋銀行

10 | 自治体

美唄市
石狩市
南富良野町

11 | 物産、観光

タンチョウおもてなしセレクション
石狩浜ハマナス再生プロジェクト
北海道中央バス株式会社

12 | 農林水産

新砂川農業協同組合
北海道、
国立研究開発法人森林研究・整備機構、
地方独立行政法人北海道立総合研究機構、
北海道大学農学部
朱鞠内湖淡水漁業協同組合

コラム

アオアヲナルトリゾート(徳島県鳴門市)
JAたじま(兵庫県豊岡市)

14 | 教育

学校法人坂本学園 大地太陽幼稚園
北海道大学
北海道教育大学附属旭川小学校

15 | 報道

北海道テレビ放送 HTB
NHK 札幌放送局

協議会について

16 | 地域の未来をつなぐ協議会

For Nature Positive

ネイチャーポジティブのために

自然と自然、人と人がつながり

くらしの基盤をつくる

私たちの身近にある自然環境は、経済活動など人の営みにより減少を続け、その恩恵も持続が危ぶまれる状況です。いま、世界では失われ続けている生物多様性を、回復へと向かわせる「ネイチャーポジティブ」へと動いています。その実現には、市民・企業・行政が力を合わせて自然をつなぐ「生態系ネットワーク」が、鍵となります。北海道の中央を流れる石狩川流域でも、多様な生きものが行き来できる環境づくりに取り組んでいます。こうしたネットワーク形成に、多くの皆さまにご参加いただけることを願っています。

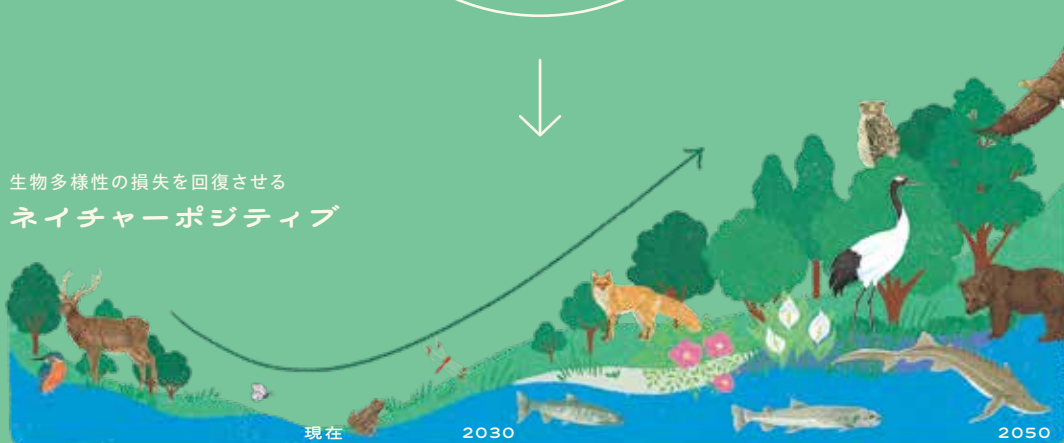
石狩川流域 生態系ネットワーク推進協議会



タンチョウと共存できる
流域づくり協議会

イトウも棲めるまちづくり
推進協議会

生物多様性の損失を回復させる
ネイチャーポジティブ



国際的な目標では、2030年までにネイチャーポジティブを実現し、2050年までに自然と共生する世界を達成するビジョンを掲げています。

生きものの居場所をつなぐ

生態系ネットワーク

野生生物が暮らすには、餌場や休む場所、季節ごとの生息地がつながっていることが大切です。生態系ネットワークは、生物多様性が保たれた国土を実現するために、重要な自然環境を核として、生息地同士が互いに支え合いながら機能的につながるように整える取組です。



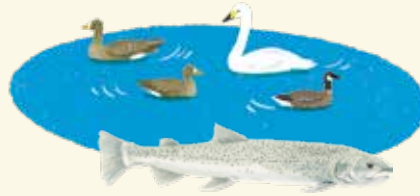
飛んで移動する鳥や昆虫、川を泳いで移動する魚など、野生生物の移動方法は多様です。人が道を歩いて移動するのは異なり、生きものはそれぞれの特性に応じて、生息地の間を行き来しています。そのため、生態系ネットワークには、こうした生きものの多様な移動を支えるさまざまな“つながり方”が必要になります。

取り組みを導くシンボルとなる生きもの



生息地を広げたり つなぐ必要がある生きもの

北海道を代表する生きもの、タンチョウやシマフクロウはかつて道内で広く見られていましたが、明治期以降の乱獲や開拓に伴う生息地の消失で、絶滅危機という深刻な状況に追い込まれました。現在は、道東に分布が偏り、生息地の分散と新たな生息地の拡大が求められています。



広い範囲を 移動する必要がある生きもの

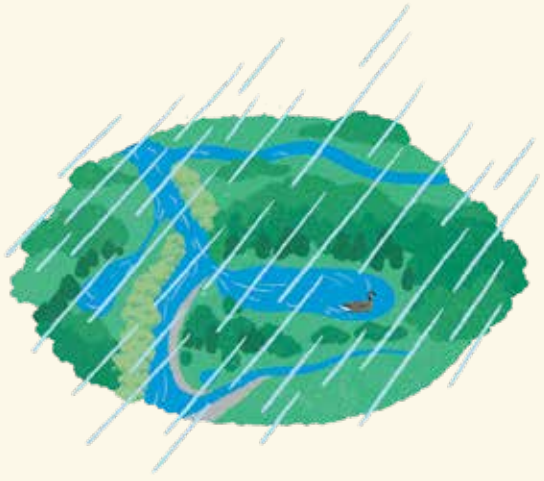
渡り鳥は季節ごとに暮らす場所を変え、毎年数千キロを往復する種もいます。その生活史は、繁殖地・越冬地・渡り途中の中継地の全てが欠けずに機能することで維持されています。サケなどの回遊魚にとっても、川と海を自由に往来できる連続した環境が生存の鍵となります。



地域との関わりが 深い生きもの

もともと生息域に限られるなど、地域の歴史や文化、暮らしの中で深い愛着が育まれてきた生きものは、その地域との結びつきが強い存在です。こうした種は、地域の取り組みを象徴する旗印として機能し、特色をわかりやすく示すとともに、関心を高めるうえで非常に有効です。

人のくらしとも 関わりあっています



生態系ネットワークは、自然環境を守るだけでなく、その地域に暮らす人の安全・安心や心の豊かさを育み、地域本来の魅力を掘り起こします。地域と人との新たなむすびつきは、地域の活性化につながることを期待できます。

自然再生と防災減災

保全・再生された湿地や森林は、大雨の時に水をたくわえ、川に流れ出す水の量を抑えます。そのため、川の水位の急上昇を防ぎ、下流にあるまちへの被害を軽減することが期待できます。

心身の健康やウェルビーイング

自然豊かな環境は、子どもたちの好奇心を育み、大人へは癒しなどをもたらします。感染症などの分野では、人が健康であるためには、生きもの、生態系が健康であることが重要であるという、ワンヘルスという考え方があります。



地域産業の発展

環境に優しい農産物のブランド化や、自然景観や野生生物を活かした観光など、自然環境は地域の魅力を高める力となります。また、水源地の保全や地下水の貯留は、地域の産業に欠かせない水資源を持続的に供給します。

関係人口の創出

シンボルとなる生きものがきっかけとなって地域間の交流が生まれています。食や観光を通じて自然と共生する地域のくらしに触れることで、その土地への関心や愛着が育ち、都市部など離れた地域に暮らす人も、一緒に地域をつくる仲間になります。



Nature in the Ishikari River Basin

石狩川流域の生きものと自然

大雪山系からそそぐ

日本三大河川のひとつ、石狩川

北海道の中央を流れる石狩川は、長さ268kmで全国第3位を誇る大きな河川です。面積14,330km²の広大な流域にはすみずみまで支流が行きわたり、水環境を支えています。流域には、札幌市や旭川市といった人口の多い都市のほか、農林業や漁業が盛んな地域まで、特色のある46の自治体が広がっています。

石狩川流域には、世界でもここでしか見られない生きものや、季節ごとに渡ってきて、繁殖や越冬、休息の場として利用する生きものなど、多くの野生動物が暮らしています。これは、流域にその生態系を支えている自然環境がある証でもあります。しかし一方で、時代の変化の中で姿を消した生きものもいます。

こうした生きものが再びこの地で暮らせる環境を整え、今ある貴重な自然を守りながら、豊かな自然資本を未来へとつないでいくためには、生態系ネットワークの形成が大切な取組となります。



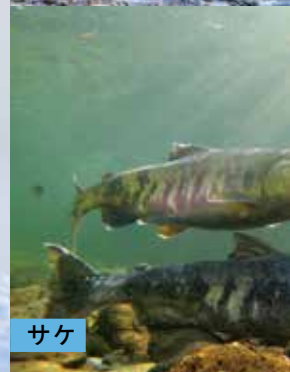
マガン



サクラマス



タンチョウ



サケ



写真提供：イトウ(南富良野町教育委員会)



オジロワシ



シマフクロウ



イトウ



ハマナス



オオハクチョウ



川から広がる自然のつながり

川は、森林や農地、都市などをひとつながりの空間として結び、国土の生態系ネットワークの骨格となる存在であり、まとまった自然環境が残る貴重な場所でもあります。石狩川水系の国直轄区間を管理する札幌開発建設部と旭川開発建設部では、この川の環境を守り、その恵みを活かすためのさまざまな取り組みを進めています。

魚がのぼりやすい川づくり

石狩川は平成6年に「魚がのぼりやすい川づくり」推進のモデル河川に指定され、平成10年に実施計画がまとめられました。石狩川や幾春別川、豊平川、さらに豊平川の支川である真駒内川、厚別川など、合わせて96カ所の河川横断施設を対象に、段階的に整備を進め、サケなどの代表的な魚の生息範囲を広げていくことを目指しています。第1段階として、旧花園頭首工、永山床止、大雪頭首工の魚道が整備され、石狩川では、現在、愛別町付近まで魚が遡上できるようになりました。旭川市内でもサケの遡上が確認されています。



大雪頭首工の魚道

かわまちづくり

国土交通省では、水辺を活かして地域のにぎわいを生み出す「かわまちづくり」を進めています。地域にある資源や知恵を活かしながら、市町村や民間事業者、地域住民と河川管理者が協力し、「河川空間」と「まち空間」をつなげて魅力あふれる場所をつくっていく取り組みです。令和6年度からは、新たに登録される「かわまちづくり」で、自然環境の保全や創出に役立つ「自然再生」に関する区域の整備も行えるようになりました。地域のにぎわいと自然環境の再生を同時に進める、新しい形の取り組みがはじまっています。

石狩川流域の北海道開発局が管理する河川では
現在8箇所が登録されています

千歳市かわまちづくり	令和7年8月登録
南富良野町かわまちづくり	令和5年8月登録
江別市かわまちづくり	令和4年8月登録
恵庭かわまちづくり	平成30年3月登録
砂川地区かわまちづくり	平成30年3月登録
旭川市かわまちづくり	平成21年5月登録
旭川駅周辺かわまちづくり	令和5年8月登録
美瑛川地区かわまちづくり	平成26年3月登録

自然再生事業

石狩川の改修事業が、洪水に対する危険性の軽減や土地開発等、流域の発展に大きく寄与してきた一方、流域及び河川環境が大きく変化してきました。このため、北海道開発局では石狩川において生じている河川環境上の問題点や課題について把握・分析を行い、河川及び流域の自然再生の理念や目標を明らかにすると共に、石狩川本川における良好な自然環境の再生に向けた方策をとりまとめた「石狩川自然再生計画」を平成14年に策定しました。現在は、地区ごとに詳細な検討を行って実施計画を策定しながら事業を進めています。



当別地区自然再生

河岸の整備、植樹の推進、湿地や水面の復元を通じて、かつての多様な環境を取り戻し、様々な動植物が生育する「水と生きものの郷」を再生することを目指しています。



ホロムイリンドウ

ホロムイクグ

ホロムイヌゲ

ホロムイツツジ

ホロムイチゴ

ホロムイソウ

ホロムイコウガイ



幌向地区自然再生

かつて広がっていた幌向原野の自然が失われつつあるなか、ミズゴケなど湿生植物の群落を再生し、次世代へ自然を引き継ぐ取組を進めています。

袋地沼地区自然再生

石狩川下流の旧川の一つ、袋地沼を自然再生のモデルとして選び、ワークショップで専門家や地域の声を聞きながら湿地の再生などに向けた計画づくりを進めています。



01

ECOLOGICAL NETWORK

+

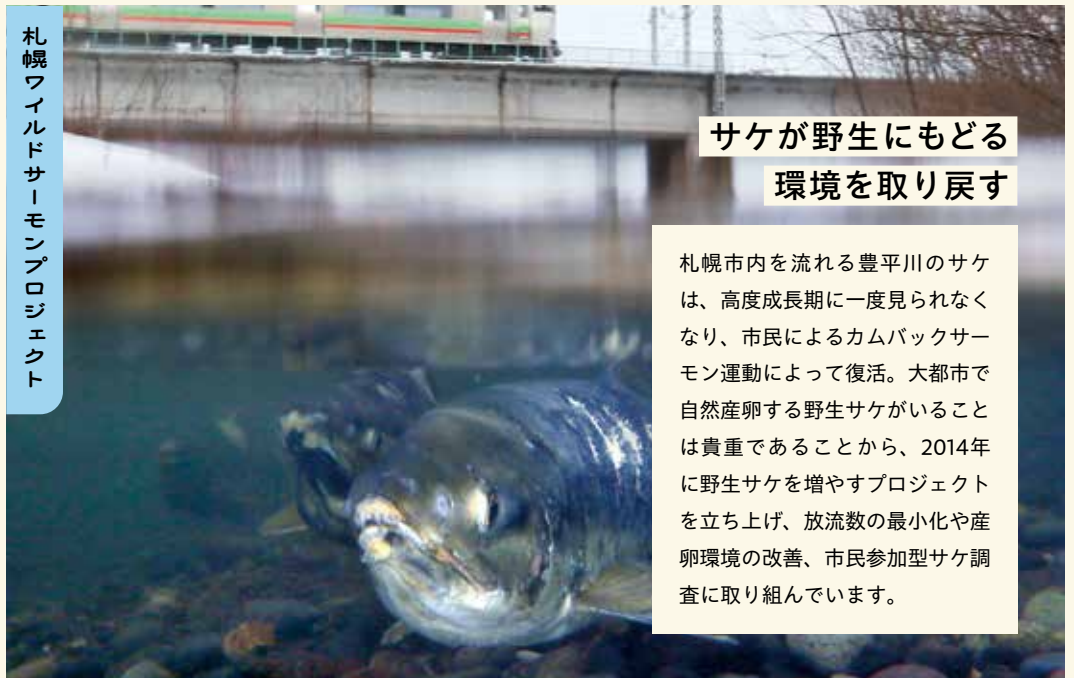
市民 NPO

取組キーワード

地域の自然の調査・保全活動
 地域内の普及啓発活動
 自分と自然環境との接点を知る

地域の自然はくらしを潤し、防災や減災、地域の産業を持続的なものにするなど、常に市民と共にある存在です。一人ひとりが地域の未来のあり方を考え、選択していくことが持続可能な地域社会をつくります。

札幌ワイルドサーモンプロジェクト



サケが野生にもどる 環境を取り戻す

札幌市内を流れる豊平川のサケは、高度成長期に一度見られなくなり、市民によるカムバックサーモン運動によって復活。大都市で自然産卵する野生サケがいることは貴重であることから、2014年に野生サケを増やすプロジェクトを立ち上げ、放流数の最小化や産卵環境の改善、市民参加型サケ調査に取り組んでいます。

舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会



タンチョウの見守り活動

長沼町の農家による「呼び戻す会」は、明治期以降地域から姿を消したタンチョウを呼び戻し、地域を活性化することを目的に活動しています。舞鶴遊水地でタンチョウが初めて子育てをした2020年、同会はタンチョウに優しい観察方法を普及啓発する「長沼タンチョウ見守り隊」を結成しました。

長沼タンチョウ・ガイドの会



来訪者の理解を深める

タンチョウの生態や、タンチョウが子育てをする舞鶴遊水地という新たな地域資源について、地域住民の理解を深めるために長沼町が行ったガイド講座。その受講生たちによって組織されたガイドグループは、舞鶴遊水地を訪れる観光客へ長沼町の「タンチョウも住めるまちづくり」を伝える案内役となっています。

02

ECOLOGICAL
NETWORK

+

企業

取組キーワード

ビオトープ整備や水源地保全

環境保全プロジェクト商品の開発や販売

地域の自然環境保全の支援

生物多様性の回復をはかるネイチャーポジティブについて、企業ではどのように取り組めるか。その方法のひとつ、生態系ネットワークへの取組は、地域とのつながりを深め、生態系の回復にも貢献します。

日本航空株式会社、イオン北海道株式会社

地域と子どもたちの 未来のために

日本航空のシンボルマークである「ツル」への親しみから、JALグループは長沼町の「タンチョウも住めるまちづくり」の観光商品の造成、長沼産野菜の活用や販売などを通して支援しています。イオン北海道は、「幸せの黄色いレシートキャンペーン」を通じて舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会や札幌ワイルドサーモンプロジェクトなどの環境保護活動を含む様々な地域活動を支援しています。2025年、両社は連携し千歳川流域の子どもたちに、タンチョウをはじめとした自然と共存する地域社会について学習する、エコハーモニープログラムを舞鶴遊水地を拠点に開始しました。



株式会社北洋銀行

生物多様性を助成金で支援

北洋銀行は、「ほっくーネイチャーポジティブ基金」を通じて、北海道の生物多様性増進（維持・回復・創出）や希少種保護、生息環境の整備等に取り組む様々な団体に対し、2025年までに204件、合計1億60万円を助成しています。北海道に根差した金融機関として、北海道のネイチャーポジティブに貢献する取組みを支援しています。



03

ECOLOGICAL
NETWORK

+

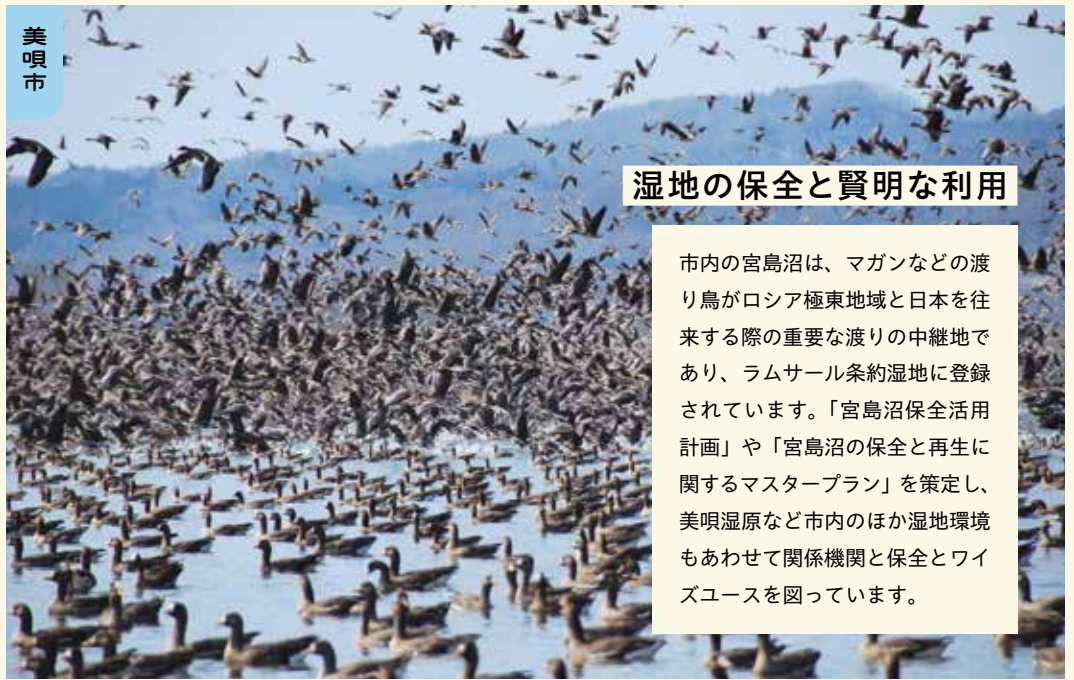
自治体

取組キーワード

環境保全の制度づくり
 市民活動や企業活動の支援
 市民への普及啓発

自治体の積極的な自然の保全・再生への関わりは、市民への普及や企業の取り組みがより進みやすくなります。自然資源を見直し、守り伝えていく仕組みがあることで、さまざまな環境が守られています。

美唄市



湿地の保全と賢明な利用

市内の宮島沼は、マガンなどの渡り鳥がロシア極東地域と日本を往来する際の重要な渡りの中継地であり、ラムサール条約湿地に登録されています。「宮島沼保全活用計画」や「宮島沼の保全と再生に関するマスタープラン」を策定し、美唄湿原など市内のほか湿地環境もあわせて関係機関と保全とワイズユースを図っています。

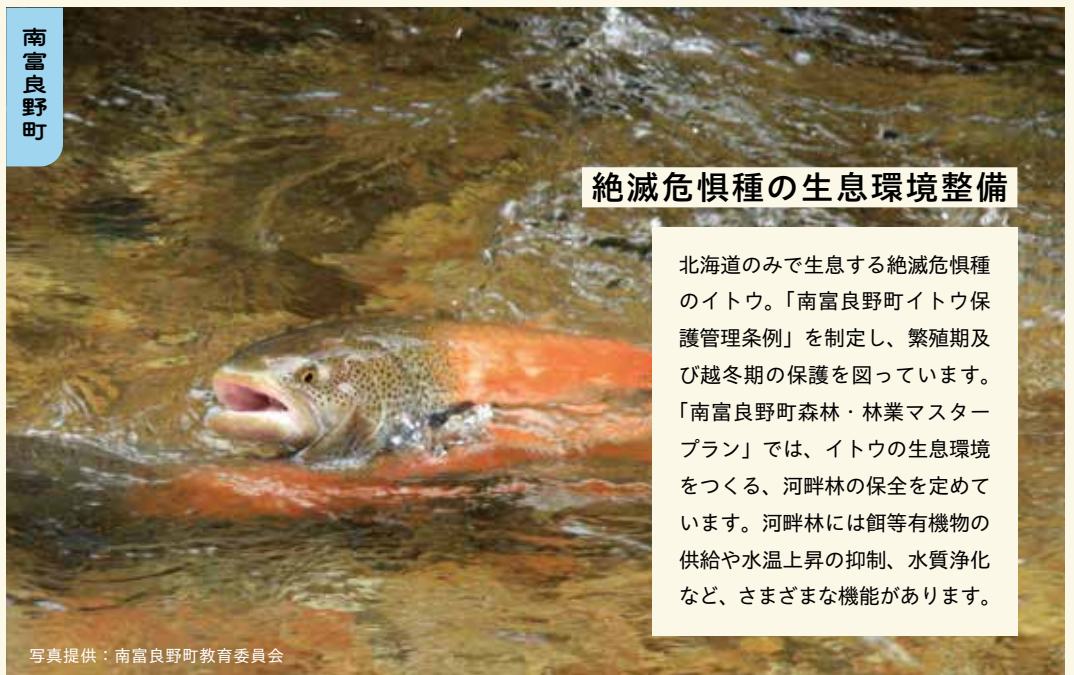
石狩市



条例を定め海浜植物等を保護

石狩川河口から広がる海岸線の海岸砂丘には多様な海浜植物が生育していましたが、採取や車両乗り入れで減少。そこで市は「石狩市海浜植物等保護条例」を制定し、保護区を定めて海浜植物の自生地を守っています。また、2024年に市内の生物多様性を保全するための「いしかり生き物かけはし戦略」を策定しました。

南富良野町



絶滅危惧種の生息環境整備

北海道のみで生息する絶滅危惧種のイトウ。「南富良野町イトウ保護管理条例」を制定し、繁殖期及び越冬期の保護を図っています。「南富良野町森林・林業マスタープラン」では、イトウの生息環境をつくる、河畔林の保全を定めています。河畔林には餌等有機物の供給や水温上昇の抑制、水質浄化など、さまざまな機能があります。

写真提供：南富良野町教育委員会

04

ECOLOGICAL
NETWORK

+

物産
観光

取組キーワード

自然を活かした商品づくり

市民・企業・行政と連携した企画

生きものをテーマにした観光

地域の自然を活かしたものづくりや観光は、その特色が自ずと魅力として現れます。産品や観光を通じた地域や自然の保全・再生のPRは、地域の内外を問わない多くの方の目にふれる機会となります。

北海道中央バス株式会社

タンチョウおもてなしセレクション

地域のシンボルとして商品展開

タンチョウも住めるまちづくりが行われている長沼町では、タンチョウをモチーフとしたお菓子や工芸品が、地域の様々なお店で販売されています。長沼町を訪れた方は、これらの商品を紹介するリーフレット「タンチョウおもてなしセレクション」を片手に、お土産選びや、食事を楽しむことができます。

新たな「ハマナスと人の営み」を創る

石狩浜ハマナス再生プロジェクトは、ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地域づくりをめざすプロジェクトです。「ハマナス再生園」でハマナスの再生手法の検証に取り組み、花びらや実を素材にしたハマナスプロダクト（食品や化粧品など）を通じて石狩市の自然をPRしています。

石狩浜ハマナス再生プロジェクト

自然観察を活かした観光

同社の旅行部門シービーツアーズカンパニーは、長沼町の舞鶴遊水地を訪れ、タンチョウの観察やものづくり、地元産品などを味わうバスツアーを開催しています。ツアーでは地元住民によるガイド、長沼タンチョウ・ガイドの会の案内で、どのように、人とタンチョウが共生しているかなどを紹介しています。

05

ECOLOGICAL NETWORK

+

農林水産

取組キーワード

農薬や化学肥料の低減
生きものの生息環境づくり
自然に優しい産物のブランド化

自然とともにある一次産業。田んぼは、かつての氾濫原に代わり、魚や水生昆虫の生息場所にもなっています。農薬や化学肥料を減らしたり、魚が泳げる水路づくりなど、生きものの生息環境が増えています。

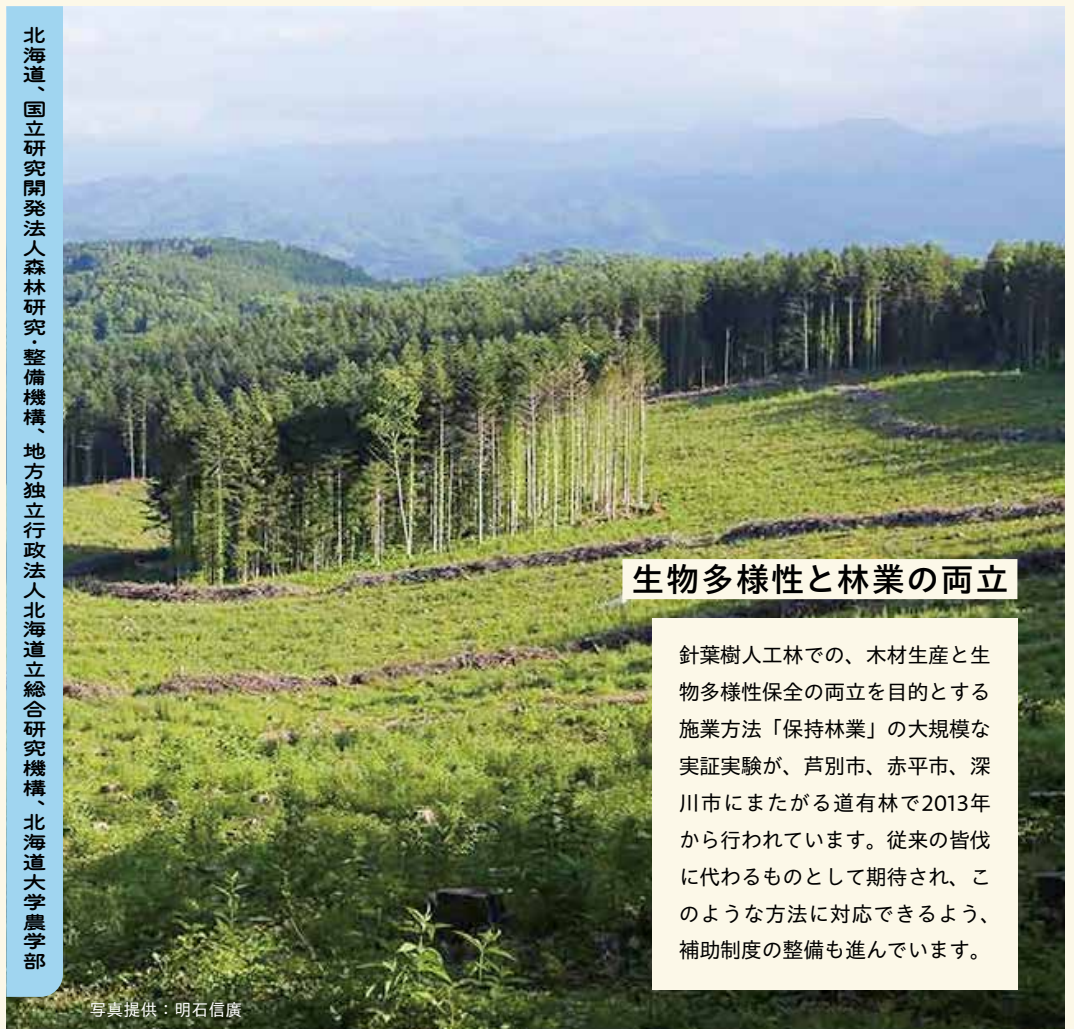
新砂川農業協同組合



からだにも環境にも 良いお米を届ける

「ゆめびりかの里」として知られるJA新すながわは、栽培期間中農薬や化学肥料を使わず栽培した米を、2023年に初出荷しました。農協が主導して無農薬栽培に取り組む事例は全国的にも珍しいですが、消費者に選んでもらえる産地づくりを目指して、意欲のある生産者との連携により、食味にもこだわった安全・安心な米づくりを推進しています。

北海道、国立研究開発法人森林研究・整備機構、地方独立行政法人北海道立総合研究機構、北海道大学農学部



生物多様性と林業の両立

針葉樹人工林での、木材生産と生物多様性保全の両立を目的とする施業方法「保持林業」の大規模な実証実験が、芦別市、赤平市、深川市にまたがる道有林で2013年から行われています。従来の皆伐に代わるものとして期待され、このような方法に対応できるよう、補助制度の整備も進んでいます。

写真提供：明石信廣

持続的な漁業と地域振興

雨竜川上流の朱鞠内湖等を漁場とする同組合は、漁業対象種のサケ科イトウを保護し、持続可能な地域資源とするために、漁具や遊漁区域などにルールを設け、利用の調整を行っています。また、イトウが絶滅した河川の環境を改良し産卵個体群を復活させる事業や、地域の子どもたちがイトウに親しむ環境教育を行っています。



物産 観光

徳島県鳴門市
アオアヲ ナルト リゾート
宿泊者とホテルがともに
地域の環境保全に貢献

コウノトリが暮らす、美しい鳴門の環境保全に貢献する「SDGsコウノトリ応援宿泊プラン」を販売しています。宿泊費から1泊1人100円、ホテルからも1泊1人200円の計300円が「とくしまコウノトリ基金」へ寄付されます。プラン利用者にはコウノトリ観察ガイドマップの配布や、スペシャルデーには「コウノトリれんこん」掘りが体験ができるイベントも開催。



農林 水産

兵庫県豊岡市
JAたじま
希少な生きものが生息する
その環境が、生み出す価値

1971年に一度野生絶滅したコウノトリは、2005年に再び兵庫県豊岡市から日本の空にはばたきました。コウノトリ復活のために、豊岡市では農業や化学肥料に頼らない「コウノトリ育む農法」という環境創造型農業に取り組み、この農法で栽培された米は一般的な農法に比べて高値で買い取られ、農家の所得増につながっています。



写真提供：JAたじま

Column

他地域の事例

06

ECOLOGICAL NETWORK

+

教育

取組キーワード

環境教育の場
学校や園庭でのビオトープづくり
研究フィールドとして活用

子どもの心身の発達を支えたり、自然科学の知識や好奇心を育むには、自然環境は絶好のフィールドです。理科や総合学習、探求の時間の授業や課外活動は、子どもたちが自然とふれあう良い機会となります。

学校法人坂本学園 大地太陽幼稚園



園庭ビオトープがはぐくむもの

北広島市にある大地太陽幼稚園の園庭には、草むらや森が広がり、生活環境全体をビオトープとすることで、子どもの探求心や当たり前前に「豊かな自然を守り、創造したい」と思う心を育てています。また、環境を維持するために周辺の土地を購入してビオトープとして保全しています。全国学校・園庭ビオトープコンクール2025で優秀賞を受賞しました。

写真提供：「大地太陽ドキュメンテーション2025」実生苗を守る家

北海道大学



川の形状が生み出す環境

雨竜川上流域の広大な雨龍研究林に流れるブトカマベツ川では、朱鞠内湖淡水漁業協同組合や自治体と連携して川を昔の形状に戻し、氾濫原を再生させるプロジェクトを実施。講義をきっかけに、学生を中心に結成された「ホロカナイプロジェクト」では、朱鞠内湖や原生林などの自然を大切にしながら、幌加内町の人口減少対策を応援する活動が行われています。

写真提供：小林真

北海道教育大学 旭川小学校



川との共生を多角的に考える

通学範囲が広い附属旭川小学校は、全校共通の学習テーマに市内に多く流れる「川」を選びました。4年生は、地域の河川や自然をよく知る指導者から川に暮らす生きものや、治水と環境との関係などを学び、「川とともに生きるまちづくり」について自分たちの考えを深めます。令和6年度には第32回全国川サミット in 旭川で児童たちが学習の成果を発表しました。

07

ECOLOGICAL
NETWORK

+

報道

取組キーワード

環境保全活動の報道・普及啓発

環境保全プロジェクトの企画

自然環境保全の支援

報道機関は、新聞、テレビ、インターネットなどを通し、広く情報を伝えることができます。地域の自然や保全活動への継続的な取材は貴重な記録・資料となり、新たな知見の提供や、世の中を動かす原動力になります。

北海道テレビ放送HTB



自然と人との記録が心を揺さぶる

かつては湿地が広がりツルの繁殖地だった長沼町。明治期に姿を消したツルを再び呼び戻し、地域を活性化していくために「タンチョウも住めるまちづくり」を推進します。取組当初から7年間の取材を記録したドキュメンタリー映画「奇跡の子 夢野に舞う」が2024年に全国の劇場で上映され、今は映像を貸し出して各地で上映会が続いています。町の懸命な取組を広く伝えています。

NHK札幌放送局

地域の取組を
わかりやすく伝える

札幌市のサケ復活を目指す市民運動は、10年前に放流から野生サケ保全(SWSP)へと舵を切りました。NHKはその様子を報道し続けています。水の中という見えにくい世界に暮らすサケのことを、映像としてわかりやすく伝えることにも貢献してきました。また、2024年～2026年のSWSP市民フォーラムがNHK札幌放送局を会場に開催されました。

NHK番組「サケカメラ2023-2024」で放送された魚道を登るサケの映像

石狩川流域生態系ネットワークをかたちづくる

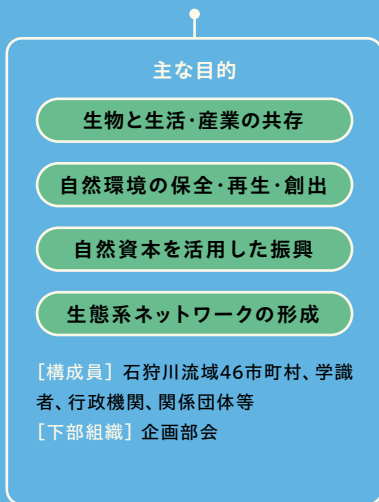
地域の未来をつなぐ協議会

北海道の開拓がはじまってから約150年、自然環境は大きく姿を変えました。かつては大きく蛇行していた石狩川も、治水や開拓のために直線化が進み流路は約100km短くなりました。石狩低地帯に広がっていた広大な湿原は地下水位の低下や埋め立てによって失われ、今ではそのほとんどが姿を消しています。一方で、この地域は日本の食料供給を支える重要な農業地帯として発展してきました。

これからは、野生生物の生息地を守ることが、人の暮らしを守り豊かにすることにもつながるといいう考え方が大切になります。どんな未来が地域にとって望ましいか。市民、NPO、企業、教育機関、専門家、行政が、それぞれの立場から意見を出し合い、実現に向けて動き始めています。

石狩川流域生態系ネットワーク

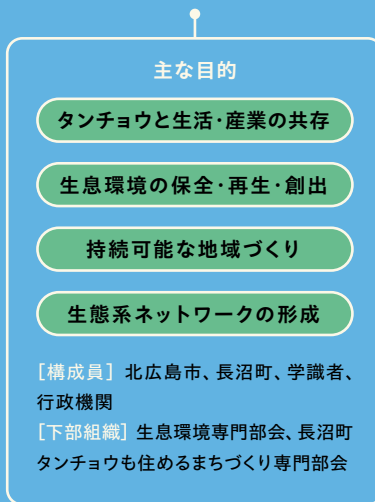
推進協議会



2024.2
設立

タンチョウと共存できる

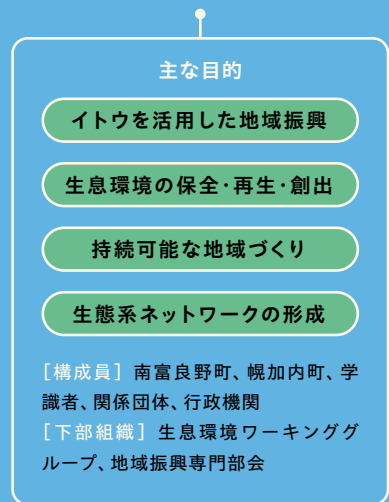
流域づくり協議会



2024.12
発展的改組

イトウも棲めるまちづくり

推進協議会



2025.8
設立

2016.9

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 設立



石狩川流域生態系ネットワーク

46市町村

- | | | | | | |
|------|------|------|-------|------|-------|
| 札幌市 | 三笠市 | 北広島市 | 長沼町 | 北竜町 | 東川町 |
| 旭川市 | 千歳市 | 石狩市 | 栗山町 | 沼田町 | 美瑛町 |
| 夕張市 | 滝川市 | 当別町 | 月形町 | 鷹栖町 | 上富良野町 |
| 岩見沢市 | 砂川市 | 新篠津村 | 浦臼町 | 東神楽町 | 中富良野町 |
| 美瑛市 | 歌志内市 | 南幌町 | 新十津川町 | 当麻町 | 南富良野町 |
| 芦別市 | 深川市 | 奈井江町 | 妹背牛町 | 比布町 | 幌加内町 |
| 江別市 | 富良野市 | 上砂川町 | 秩父別町 | 愛別町 | |
| 赤平市 | 恵庭市 | 由仁町 | 雨竜町 | 上川町 | |

生態系ネットワークを詳しく知るには



**川からはじまる
川から広がる
魅力ある地域づくり**

国土交通省水管理・国土保全局
河川環境課

全国で展開している、生態系ネットワークの成り立ちや事例など



**生態系ネットワーク
財政支援制度集**

国土交通省 農林水産省 環境省

各省の支援制度の概要や、制度を活用した、森、川、海、里山などでの事例など

2026年3月 発行

自然と地域の未来をつなぐ

石狩川流域生態系ネットワーク

石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会

事務局

国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部

国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部

協力

公益財団法人 日本生態系協会

石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会の
最新情報はこちら

